

## 聖霊降臨の主日

2016.5.15

ヨハネ 14・15-16,23b-26

今日私たちは聖霊降臨の祭日を祝っています。「聖霊降臨」ということばでわたしたちが理解しているのは、今日の第一朗読で聴いた「使徒たちの宣教」に記されている出来事です。けれども、今日の聖霊降臨の祝いは、イエスの昇天の後に弟子たちが体験した、「使徒たちの宣教」に語られている「聖霊降臨」という不思議な出来事だけを記念して祝うのではありません。今日の祭日は、洗礼の恵みを受けてイエス・キリストを信じる者たちとされたわたしたちの上に、今も働いておられる神の霊である聖霊への信仰を新たにする感謝の祝いでもあります。そのことを理解するためにも、今日の三つの朗読で聴いた聖霊の働きに注意を向けるのが良いと思います。

今日のヨハネによる福音は、聖霊降臨の日に弟子たちの上にくだった聖霊は、イエスが弟子たちとの別れにあたって約束しておられた聖霊であることにわたしたちの注意を向けさせてくれます。イエスは、十字架の死を前にした、弟子たちとの最後の晩餐の席で、弟子たちのもとに来てくださる聖霊を約束してくださったのです。今日の福音の二行目にある、ヨハネ 14 章 16 節を見ると、「わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる」とイエスは言われています。イエスがここで言われる弁護者とは聖霊であることが、もう少し先の 26 節のおことばを見ると分かります。そこでは次のように言われています。「しかし、弁護者、すなわち父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる」。

十字架につけられて死に、復活して父なる神のみもとに行こうとされているイエスは、後に残される弟子たちにこのような約束を残してくださったのです。イエスが弁護者と呼ばれる聖霊は、十字架の死と復活を通して父なる神のもとに行かれるイエスが、父なる神に願い求めてくださることによって、父なる神が遣わしてくださる、新たなもう一人の弁護者です。その弁護者は永遠にあなたがたとともにいるために、父なる神が遣わしてくださる聖霊であるとイエスは言われています。「永遠に」とイエスが言われるのは、イエスは今や弟子たちを残して父なる神のもとに行こうとされているからです。また、「永遠に」とイエスが言われるのは、弟子たちの一人ひとりの生涯を越えて、弟子たちの宣教を通して、イエスを信じる者とされた人々とともに「世々に渡って」ということです。その聖霊が「弁護者」と呼ばれるのは、弟子たちのもとに来てくださ

る聖霊が、かつてイエスがそうされたように、弟子たちを呼び集め、弟子たちとともにいて、弟子たちを教え導き、守ってくださるからです。

事実、今日祝う聖霊降臨の出来事を伝える「使徒たちの宣教」は、聖霊降臨によって聖霊に満たされた弟子たちの力強い宣教の活動を語ると同時に、その宣教によってイエス・キリストへの信仰に導かれた最初の教会の信者たちの上にも、弟子たちに注がれたのと同じ聖霊が注がれたことを伝えています。「使徒たちの宣教」はペトロやヨハネ、ステファノやフィリポ、バルナバやパウロといった使徒たちや最初の宣教師たちの宣教によって、キリスト教の教会がユダヤ人たちの枠を超えて、広く当時のローマ帝国の各地の異邦人たちの間に広まって行った歴史を語っていますが、このような教会の活動を可能にしたのは、聖霊降臨によって弟子たちの上に注がれた聖霊の働きによることであるとわたしたちに告げているのです。

ヨハネ福音書と「使徒たちの宣教」に語られている聖霊は、今も、イエスの約束のことばの通り、イエス・キリストの名が唱えられる教会においてわたしたち一人ひとりの上にも注がれていると、わたしたちは信じています。ミサのたびごとに、わたしたちは洗礼の時に受け入れた信仰を新たにして、父なる神と、その御子イエス・キリストへの信仰告白に続けて、「聖霊を信じます」と聖霊への信仰を告白します。この信仰告白は、今もわたしたちとともにいて、わたしたちをイエス・キリストへの信仰に導き、わたしたちをイエス・キリストのもとに呼び集めてくださる聖霊への信仰告白です。今日、聖霊降臨の日、わたしたちはわたしたちの上に注がれ、わたしたちをイエス・キリストの教会に呼び集め、わたしたちを父なる神の子らとしてくださった聖霊のみわざへの感謝を込めて、わたしたちへの聖霊降臨を祝ってこのミサをささげているのです。

このミサの中で、わたしたちはイエスが約束してくださった聖霊を受けて、イエスが語られたみことばに耳を傾け、イエスが語られたすべてのことを、ここに集うわたしたち一人ひとりへのイエスの語りかけと受け止めさせていただきます。このミサの中で、イエスのうちに宿っておられた、イエスの霊である聖霊を受けて、イエスとともに、イエスがわたしたちすべての者の父としてお示しくださった父なる神に向かって「アッパ・天におられるわたしたちの父よ」とそのみ名をお呼びするのです。そして、このミサの中で、復活されて天の父のみもとにおられるイエス・キリストを今日もここに集うわたしたちの中に現存させてくださる聖霊の働きによって、イエス・キリストの御体とされたご聖体をいただくのです。

今日の福音の最初に戻って見ると、イエスは「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る」と呼びかけておられます。聖霊はわたしたちをこのイエスの愛の掟へと呼び戻してくださいます。イエスの命じる掟とは、

言うまでもなく「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」という掟です。真に愛するためには、イエスがそうされたように、愛する者のために自分をささげ、自分を捨てなければなりません。ローマの教会への手紙でパウロが言っているように、それは、肉の人間であるわたしたちの力によってだけでは出来ることではありません。愛することの難しさを感じるたびに、十字架のイエスに目を上げ、聖霊の助けを祈り求めたいと思います。イエスが愛されたように愛し続けることが出来るよう、わたしたちの中にいてくださる聖霊の力により頼みたいと思います。そのような祈りを込めて、今日の聖霊降臨の祝いのミサをともにおささげいたしましょう。

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高